



TITLE:

# 京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 2

AUTHOR(S):

---

CITATION:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 2. 京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 1952, 2

ISSUE DATE:

1952-11-04

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/186883>

RIGHT:

# 京都大学瀬戸湾実験所振興会

## 水族館 月報

No. 2

1952. 10月(11月4日)

- ◎ この月の記録としては実験所創立30周年記念式と次回振興会運営委員会とあけねばならぬ。

創立30周年記念式は18日、10-14時、所内博物館階上で、学長以下京大関係者、実験所旧職員、創立に貢献のあった地元の人達約70名が列席して和やかに行われた。この日水族館は9-16時無料開放され、学生実習室には実験所の活動状況を示す種別資料が詳しい説明を附して展示公開された。

運営委員会は翌19日、9-15時に、京大側委員4名に白浜町及び観光協会を代表する2名を加へて、研究室図書室で開かれた。こゝで振興会々則、水族館運営に関して振興会と場所山熱帯植物園、観光バス、交通公社との間に結ばれた契約が承認され、水族館従業員に関する認定が終了、更に今後1ヶ年の概略予算に了解が与えられた。入場料に関する説明、この月報の配布先の問題、入場料に同する質疑応答、雨天の際の観光客の問題、次回委員会開催の大体の予定(1953年4月)が言及された後、次の諸項が決定された。

1. 1952年度水族館施設として鯨骨の組立を計画する
2. 1952年度実験所施設の決定は実験所側委員に一任する。

実験所に於て合議の結果、顕微鏡寫真及び文献複写用セプトの完備を計画する事と決つた。

3. 番所山植物園に美化を依頼する実験所構内の区域は更に考慮を重ねて検討する。
4. 入場料の団体割引率は厳守する。但し白根町に於て町の宣伝周知のため特に必要と認められ、かつ振興会に於て妥当であると認められた団体に対しては所定の料金に基く観覧料の発賣と白根湯崎旅館組合に委託し、同組合に対して日本交通公社に対すると同額(5分)の年費料を支拂う事がある。
5. 実験所30周年記念式典費用の一部(70,072.-)は振興会が受持つ。

① 1952年度概略予算 (1952. 9. 1 — 1953. 8. 31.)

予想入場者数	-----	20万人
入場者1人宛平均入場料	-----	15円
1年毎入場料予想額	-----	300万円

支出

番所山熱帯植物園に対する契約金	-----	50万円
人件費(常勤退職金・バスアップ資金等と含めて)	-----	72万円
材料費(魚及び餌料)	-----	36万円
光熱費(電力代等)	-----	10万円
修繕費	-----	20万円
消耗品費(切符、魚網)	-----	5万円
* 実験所政文研究報告印刷費(200頁、300部)	-----	40万円
* 水族館設備の改善	-----	20万円
* 実験所設備の改善	-----	30万円

租費 (床等々金めり)	5万19
会議費 (委員会)	5万19
修繕料 設備修繕	5万19
予備費	2万19
計	300万19

① 10月入場者数

水族館発売切符数

大人	5757	} 計 17580
小人	214	
団体	11609	

明光バス発売切符数

大人	8554	} 計 8606
小人	52	

交通公社発売切符数-----418

無料入場者 (18日無料開放, その他)-----1218

② 観覧券売上金

445,59619

③ 支出

9月の繰越金	26,019.-
9月分入場税 18817.- 3.136 (場所山) =	15,681.-
災害時予備積立金 (収入14.5万金り給料)	10,338.-
差引	0.-

人件費 (給料, 休日勤務手当)	35,883.-
光熱費 (電力代)	5,736.-
修繕費	2,125.-
備品費 (水族館越冬準備用火鉢, 湯沸し)	6,425.-
修理費 (海水タンク, 養光燈)	38,985.-
材料費 (魚類, 飼料)	8,774.-
通信運搬費	500.-
衛生費 (新聞紙種 9, 10月分)	500.-
旅費 (田辺-白浜, 文政-白浜)	1,300.-
積立金 (退職資金, バスアップ資金, 貴重資金, 厚生資金)	13,900.-
租費 (瀬戸琴典奉納金, 等)	750.-

契約金(看所山、熱帯植物園)-----74,057.-  
特別費(内容下記)-----226,072.-

計 415,007.-

11月に経過し 30,589.-

看所山に対する契約金は

$(445,596 - 1250) \times \frac{1}{6}$  として算出され、11に

1250.- は明光バブ株式会社に対する切符印刷費  
の1ヶ月分です

特別費は実験所設備改善又は活動助長のためにの支出  
で今月の内容は下記の通りです。

実験所創立30周年記念式費用の一部 70,072.-  
ライカカメラ (顕微鏡字英・文献複写用) 120,000.-  
顕微鏡字英撮影装置 (55,000.-の中) 36,000.-  
計 226,072.-

- ◎ 入場税 西牟婁地方事務所における交渉は所長の「私と  
しては税をとらないう方がよい」と考えるか、税の問題については  
更に研究させて欲しい」との言葉と「免税を決めれば  
9月1日に遡って税を併受しとする。それまでは一応、  
貴方の経現の成立の程度に査定した税を払っておいて  
いたゞさい」と言う税務課の言葉に従っておくが、  
これらの交渉の詳細は減らす博物館協会に報告さ  
れており、協会より「掲載の資料を検討し、又文部省社会  
教育課と連絡の上対策を立てます」との便りを頂く。

協会としては、これら全国的な一つのテストケースとして慎重に研究して下さるおつもりです。

## ② 10月の気象

この月の晴天日は22日であった。

	上旬	中旬	下旬
気温	$\frac{21-24}{22.5}$	$\frac{18-24}{20.5}$	$\frac{17.9-23.5}{19}$
水温	$\frac{22-24.5}{23.7}$	$\frac{22-24.5}{22.8}$	$\frac{21-23}{21.6}$

但し { 気温は南水槽室 で 10時に測定  
水温は16.22水槽

## 10月の魚

9月に人気があつめていた魚は飼育期間が長くなり且つ水温の低下してきたため次第に弱つて来たと見えた。

採集	月日	死亡日
ハナオコゼ	8月下旬	26日
ツノダシ	8月下旬 - 10月31日(15匹)	5日 - 20日に6匹死亡
ヒメヤマノカミ?	9月20日	20日
イトヒキアジ	9月20日 - 10月31日(13匹)	26日迄に5匹死亡
ツバメウオ	8月下旬	21日発病隔離

ツノダシ・イトヒキアジはまた生残っているが先月の元氣は殆どない。イトヒキアジも糸が短く成つて現すほど小さい筈である。

これに代つて 10月中人気があつめたものは

アオリイカ (10月3日 - 6日採集)  
コバンサメ (9月10日31日迄5匹及び10月12日採集)

である。アオリイカは水槽に入れてから約10日位経って餌についた。マダカは生きている+奥でないと捕えられなかったが次第に死魚を捕へる様になり、月末30日サニマの仲間とて容易に捕食するに至っている。ノ奥とノ区で暮らしている様、墨と吐きイキ色と変へず食欲と争う様はアホに人目と惹いている。またマダカのゴバンサメがノ区のシロサメにぶつ下っている様と秋變巻に保つ印象と持っているようである。

珍しい魚としてスギがノ区に採集された。又9月より引継いだ「クイトフル」の「小魚」の大部分はスジナルミ、一部はゴコナルミである事がわかった。前者はこの付近では寧ろ普通(本年に限り)の種であるが後者は極めて稀である。

#### ⑤ 10月の悪戯

公徳心の欠けに秋變巻が情けが程多、大人と小人も同様である。7月に新化11にアカウミガメの子がア区飼養にあり、愛らしい姿で上客を喜ばしていたが監視の陣と組つて3区を盗まれた。ある伊達士の団体は水槽中の奥に潜り込んで困つたに遂にアカエイトノ区、小カズ刺殺し、他の2区に<sup>(も後日死に至る)</sup>傷を負わせた。(かてう/卒の老まは全然このよう<sup>(も後日死に至る)</sup>な事に注意を怠らうとしない。

一杯飲み終て宿の浴衣のまゝ、アカウミカメに來つかつて“龍宮”  
へ行け、と甲を叩く大人がいるし、上つて來たクラハキを袖と  
袖の下に隠して持つて行つた人である。説明板に鉛筆で線  
を引いていつに小學生があつた。(かし、これは何と日本人で  
はない。何時かアメリカの兵隊が來た時も相違のものであ  
つた。尤もこれで彼等が故國に於て同様の事をするかどう  
かは判らない。

18日に無料開放した時には、近たの子供がやつて來て、  
水槽に釣糸を垂れて魚達を仰天させた。無料といふと何  
としてよい”と云う錯覚を起す向もあるらしい。

水族館はお客が多くて儲かつていらさうな——と云う  
界隈の噂話も嫌らしいのである。水族館の経営に何人かの  
実験所長が全くの無報酬で努力しており、電灯料は実  
験所で支払つてゐる。何年に1度かの台風や地震が  
あるとその後始末に忽ち數百萬圓の費用を要するが、そ  
れはすべて大業を通じ國費で補われている筈なのに其  
くない。こゝらの國費が、國民の税より成つてゐる以上、水族  
館の経営により國民に金額相當の文化的貢獻を以て義  
務を感ずるわけである。水族館を観望させるより勿論その  
重要の一部であるが、水族館の収益により相當程の実  
験所の活動が推進される事が絶対に必要である。過去數年



の経験から推定はこの相当額を約100万円と算出して  
いる。本年交予算中\*印を附したものが即ちこれであ  
る。理論的に大衆の水族会費を 経費する事により  
全国民以外にノ厘の儲けもあつてはならぬ。かであ  
つてこの点を明確にするために現在の運営方式をと  
られてゐるのである。水族会費自体の儲けは常に  
ゼロである事を喧伝したい。

水島隆